

令和5年度 第1回静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年6月13日（火）午後2時～午後4時
- 2 場 所 静岡市産学交流センター 演習室4
- 3 出席者 【委員】
藤島廣二委員 岩崎邦彦委員 森下登志美委員 上川雄司委員
百瀬伸夫委員 宮原晃樹委員 増田新委員 伊藤早紀委員
- 【事務局】
稲葉光経済局長 金丸貴之経済局次長 長島正卓市場長
水野智之市場長補佐 谷津寿夫業務係長 大谷則隆施設係長
- 4 傍聴者 4人
- 5 報 道 3社
- 6 議事内容 ①開会
②経済局長あいさつ
③自己紹介（新任職員及び受託事業者）
④審議事項説明
⑤審議
⑥事務連絡
⑦閉会
- 7 配布資料 （1）次第及び添付資料
① 次第
② 出席者名簿
③ 座席表
④ 静岡市中央卸売市場業務条例
⑤ 静岡市中央卸売市場業務条例施行規則
⑥ 静岡市中央卸売市場における将来構想の検討に係る臨時的事務を処理するための附属機関に関する細目を定める規則
⑦ 事務連絡事項
- （2）審議関連資料
資料1 中央卸売市場将来構想検討委員会について

(資料1-1) 第1回会議録

(資料1-2) 第2回会議録

資料2 中央卸売市場将来構想(骨子案)について

資料3 卸売市場をめぐる最近の情勢等について

(別紙) ワークシート(検討用シート)

8 会議記録

(1) 開会

【事務局：水野市場長補佐兼総務係長】

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

只今から第3回令和5年度第1回静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会を開催いたします。

新たな年度を迎え、本年度第1回の検討委員会となります。

また、会議に先立ち、3点お知らせいたします。

1点目は、本日、委員2名様(山下様、中村様)が、所用により欠席のご連絡をいただいておりますが、全10名の内、8名様のご出席をいただいておりますので、(次第添付資料5の)規則第7条第2項の規定により、本日の検討委員会が成立していることをご報告いたします。

2点目は、本市では、「附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づき、当検討委員会を含む附属機関の会議は、原則公開となっております。

本日の審議事項は、非公開とすべき事項を含んでおりませんので、公開としたいと存じます。

なお、審議の経過等によりまして、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度、皆様にお諮りいたします。

3点目は、2点目の「会議の公開」に基づき、会議録を作成いたします。

会議録の署名人につきましては、都度、事務局から委員お二人を指名いたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 経済局長あいさつ

【事務局：稲葉経済局長】

皆様こんにちは。経済局長の稲葉でございます。本日はお忙しいところお集りいただきありがとうございます。第3回となります静岡市中央卸売市場将来構想の検討委員会ということで、昨年度から引き続き今年度もよろしく願いいたします。昨年度については市場を取り巻く環境や公共性について主にご議論いただいてまいりました。これを基にしまして今年度は将来構想策定に向けて進めてまいるところです。ご存じのとおり新しい市長になり2か月が経ちました。仕事のやり方や意思決定の仕方がだいぶ変わってきたとことです。そういった中で今年度は再整備の可否から市の関与の手法、規模や機能等そのあたりについて皆様からご議論いただき、最終的には市長の判断を仰ぐというようなことになっていくかと思っております。これまで市長には市場を取り巻く現状や進め方については説明させていただきご理解いただいております。今年の議論を踏まえ今後につなげていくということで、ま

た市長に説明し判断を仰ぐ予定でございます。将来構想に係る議論のポイントやスケジュールを含めて説明させていただきます。皆様からは大局的な視点、足元の事業者としての視点や柔軟な発想とご意見をいただければと思います。皆様からの活発なご意見をお願いしまして私からの挨拶といたします。

(3) 自己紹介（新任職員及び受託事業者）

事務局新任職員あいさつ

受託事業者あいさつ

(4) 審議事項説明

【事務局：水野市場長補佐兼総務係長】

それでは、次第4の審議事項に移ります。ここからの進行は、藤島委員長にお任せいたします。よろしくお願いたします。

【藤島委員長】

本日も沢山の資料やデータを用意していただきそれを基に議論を行っていきたいと思います。それでは、審議事項となりますが、その前に、前回の検討委員会から、少々時間も経過していますので、皆様には、この検討委員会が担うべき目的と役割を今一度、確認いただきたいと思います。事務局からご説明をお願いします。

【事務局：水野市場長補佐兼総務係長】

説明につきましては、お手元の資料、先頭でございます「配布資料一覧」に示すとともに、右上に記載する「資料番号」に沿って説明を進めてまいります。

それでは、「次第添付資料⑤」をご参照ください。

本規則では、第1条に掲げる趣旨として、「将来構想の検討に係る臨時的事務を処理するための附属機関」と定めており、且つ、第3条には所掌事務として、①将来構想について、調査審議すること、②将来構想に関し、市長に意見を述べることと定めております。

したがいまして、今回を含めて、本年度全4回の中で、調査・審議を行うとともに、事務局によるまとめを行い、市へ「将来構想の策定」に関する提言を行っていくことが、この検討委員会の「目的と役割」としております。以上です。

【藤島委員長】

限られた期間と時間の中での活動となりますが、委員の皆様におかれましては、静岡市中央卸売市場の「将来構想」の提言に向けた活発な議論をお願いします。

それでは、次第に戻りまして、審議事項の

(1) 将来構想検討委員会について

(2) 中央卸売市場「将来構想（骨子案）」について

以上、大項目で2点につきまして、関連がありますので、一括して事務局から説明をお願いします。

【事務局：水野市場長補佐兼総務係長】

資料1 将来構想検討委員会について

資料2 中央卸売市場「将来構想（骨子案）」について に基づき説明

【藤島委員長】

ありがとうございました。ただいまご説明いただきましたことについて、ご意見、要望はありますか。

議論をする前に、以前もご説明いただいたかと思いますが、確認しておいたほうがよいかと思うことがありますでしょうか。

一つ目は、資料2の3ページ目のところで、本市場における取扱高です。前にもご説明いただいておりますが、平成27年前後あたりから青果物が急速に落ちている要因、そのあたりをもう一度ご説明しておいていただいた方が後々将来構想について議論する上では、役に立つと思いますがいかがでしょうか。

【長島市場長】

27年度から大きく取扱高が減少しているということでご指摘をいただいているところでございますが、残品整理等の問題があったかと思えます。残品の整理の仕方で、卸売業者の会計処理において、現在これ卸売市場法改正によって、可能になってはいますが、残品を自社で買い取っていたようなことがありました、会計処理が売り買いの関係で二重に計上されていた部分があります。そのため現実の数字としては、大幅に下がっているように見えるが、実際には1回の売買のところが買い戻すような格好で二重に計上されていたというところがあり、います。数字としては大きく下がってはいますが、現実として物量はそれほど大きく変化していないと認識しております。

【藤島委員長】

数量そのもの大して変わっていないということですか。

【長島市場長】

実際はそうなります。

【藤島委員長】

実際の数量の変化を年報で見ることは難しいですか。

【長島市場長】

難しいかと思えます。

【藤島委員長】

資料3、3ページの右上のインターネット販売等による消費者への直接販売の増加、これは直売所のことでよいか。

【長島市場長】

こちらの出典が農林水産省になりますので、細かい数字、直売所だけかとかといった詳細は明らかにしておりません。

【藤島委員長】

たぶん直売所だけかと思いますが、直売所の場合生鮮品だけでなく、加工品等も入っていると思いますので、どういうふうにするかにもよりますが、これをそのまま使うと間違える可能性があるので、取り扱いには注意した方がよいと思います。

4ページ目の左下の市場開設者の経営状況についてですが、施設使用料の減少が最も大きいのかなと思います。この場合施設使用料と市場使用料はどのような形で分けておりますか。

【長島市場長】

施設使用料というのは施設ごとに定額の料金を徴収するものでございます。市場使用料というのは主に卸売業者の取扱高に応じて、静岡市は取扱高の1000分の2.5徴収するという仕組みになっております。

【藤島委員長】

施設使用料がかなり減っているように見えるがその要因は何かありますか。

【長島市場長】

施設使用料の減額の原因として、やはり最近市場の中で空き施設というのが増えてきております。

例で申し上げますと、卸売業者さんの合併等がありまして、人員の削減、事務所面積の削減といったところから、面積、割合が減っているところ、それから主に静岡の市場で言いますと関連棟といった、水産物、青果物以外を取り扱っている関連事業者さんの、売り場がありますが、なかなか最近市場の中で青果水産以外のものでも生業を取るのが難しいということで、関連事業者さんの空きコマというのが増えています。そういったところが施設使用料の低下に繋がっているというふうに考えております。

【藤島委員長】

施設管理費はその施設に関わる費用ということでよろしいですか。

以前は金額が大きいときもあったが、これが最近ほとんど大きくないように見えるが、施設の老朽化もあるので施設管理費がもっとかかるように思うがそうではないのですか。

【長島市場長】

大きな修繕は毎年繰り返すのは非常に困難なところもありますので、計画的に何年かに分けて修繕

をかけているところがあります。本来であれば、一度に修繕かけたいところではありますが、なかなか難しいというのが現状です。

【百瀬委員】

事務局から議論するポイントが示されたが、今回の議論する前にまだ前半のところまで議論できていない気がします。ポテンシャル・可能性といったものが骨子案に反映されていないと思う。

食分野が今どういう状況にあって、これが近い将来がどうなるのか。例えばトレンドもあれば、リスクもある。そういう大きな流れの中で、卸売市場というのをしっかり位置づけしておかないと、構想自体がずれていってしまう気がします。

今現状考えられる食分野ということを一回整理してそこから中央卸売市場の定義を考える必要があると思う。従来の今ある定義のままではいけないのではないかなと思う。例えば大手回転寿司チェーンさん飲食チェーン店さんが生産者から直接物を仕入れる時代です。今流通が非常に多様化している中で、食の流通が中央卸売市場を経由しない、それが減少の最大の理由だと思います。

生鮮以外に、例えば加工品等も増えているが、こういったものを市場の事業として取り込みながらいくとなれば、将来の市場自体でしっかり経済的にマーケティングすることも大事で触れなければいけないと思う。7ページ目の1から14の中でどこまで書かれるかわからないが大きなビジョンが大事だと思う。それを市民も共有して、食の分野における流通において市場の位置づけというのは、もう一回整理する必要がある。技術革新もあり、想定施設はダウンサイズできるので、余剰スペースができる、それらをどうやって次の利用に活かすかという、外部に委託し運営経営していく中で、ある程度自由裁量で使えるかどうか、そういったところも考えていく必要がある。他の事例で奈良県のことについての記載がありますが、B to BやとB to Cを並列でやっているかと思います。それを今ここで触れていないので、静岡市の考える卸売市場の将来像をどこまで考えるかわからないので意見の言いようがない。9ページから11ページ目については専門の方がかなり整理されて課題がまとまっているのでこれについては専門家に任せれば心配ない話だと思う。要は骨子案からでは静岡市としての考え・ビジョンが見えない。11ページ目の社会潮流に関する項目だけでは詳細がわからない。

【藤島委員長】

社会潮流について議論するときに難しいのは、エビデンスというわけではないですが、B to BにしてもB to Cにしてもどのぐらいあるのかということになると、なかなか正確な数字をつかみ切れていない。あるいは国が出している数字で議論するのかというやり方もあると思うが今準備ができていないということがある。

【百瀬委員】

PFIという手法でいくのであれば、当然事業者の提案があり、評価するのは我々ですし、どういう提案を持ってきてもらうのか要点を整理するだけでいいと思う。細かいことはあまりこの記載しなくて、受託する事業者がある程度裁量を持たせてそこで競争の原理に基づき税金に頼らず自立できるような仕組みを考えていく必要がある。従来の市場はこうであるという前提に基づいて考えるのはあまりよろしくないと思う。

【藤島委員長】

具体的なものがないとなかなか議論が進まないというところがありますから、よろしければ、次回あたりにデータみたいなのを出していただくと、議論を進めやすくなると思います。今日いただいたご意見も非常に重要なところであることは間違いありませんけれども、社会的にどういふ変化が起きているのかを含めて、その後、実際どうなっていくのかを具体的に出していかないと、なんとも言えない。

【上川委員】

藤島先生のご指摘に関連してですが平成27年から青果の売上高が減ったことについて、長島場長の回答がありましたが、前にも指摘しましたけれども、青果が2社から1社になったわけですがその影響はないですか。

【長島市場長】

はい。2社が1社に合併したことによって、取扱高が下がったとは我々は認識しておりません。確かに時期は重なってはおりますが、そもそもの合併というのが、国も進めておりました各事業者の経営基盤強化というところになぞっての合併と認識しております。

【上川委員】

今後も、青果は1社体制で運営をするのか。施設管理者として、2社よりも1社なのか。

【長島市場長】

条例上の数は2社までという形になっておりますので、参入は可能だというふうに考えております。現実の今の卸売場の使用状況からすると、そこは少し整理が必要かなと考えます。2社よりも1社なのかにつきましての判断は非常に難しいのかなと思っております。全国の例を見ましても、卸売業者1社の市場というのは非常に増えておりますので、全国的にそういう流れを踏んでいるのかなというふうには考えております。

【藤島委員長】

2社を1社にした目的は何かというと市場の力を強めるということだと思いますが、それについてはここにいらっしゃる方々ほとんど力が弱まっているというふうに見ているだろうと思う。だから、2社を1社にしたのが正解だったのかというと、かならずしも正解とは考えられない。

【上川委員】

農林水産省の指導を受けたが、それによって市場はどう影響があったのか。

【長島市場長】

直接的に例えば市場が縮小したとか、お客様が減ったとかということは聞いてはおりません。会計処理等を正しく行うようになったところは指導を受けた影響かと思えます。

【上川委員】

施設管理者としては、指導を受けなかったのか。

【長島市場長】

農林水産省の指導としては直接指導を受けたのは事業者になります。

【藤島委員長】

市場以外からの仕入れも増えているというご意見もありましたが仕入れ先についてはいかがでしょうか。

【森下委員】

今、当社で水産はいろいろな場所から仕入れているが青果については70%静岡市場でその後は沼津。当社の店舗は沼津富士にもあるのでそちらも利用しています。むしろ中央卸売市場に大変お世話になっています。私が社長になってから直接静岡市中央卸売市場に影響があるというよりは、もともと市場外でホールセラーとか問屋さんから調達をしていたものを、現地の生産者からインポーターを通して直接持ってくるようにして差別化を図っている。静岡市場から取らなくなったということはないです。むしろ静岡市中央卸売市場から持ってきたものを、eコマース、ネットスーパーとか移動スーパーでも充てている。静岡中心の会社なのでサステナブルという意味では、地域のサステナブルを中心に考えたいので極力地域の食材を使いたい。

【藤島委員長】

静岡市の将来構想を考えていくうえで、市場にこうしたところを直してほしいとか、あるいは市場がこうなればインポーターから仕入れていたものを市場経由に変えとかはないですか。

【森下委員】

資料にもあるがコールドチェーンについてはお願いしたい。改善のアイデアとしてはいっぱいありますけど、議論が広がりすぎるので。

【岩崎委員】

幅広く利用者の声を吸い上げて、何か不満があるのかとかそこら辺のデータ、国全体のマクロのデータはありますが、実際に市場を今利用している人の声のデータも必要ではないかなと思います。不満から学ぶというところがありますのでそこら辺の情報、あと利用していない企業もなぜ利用してないのかということで、静岡の企業さんへの調査みたいなのところが何かないかとですね、この市場がどちらの方向に行くかというところは、明確にならないのではないかなというふうに思います。全体の方向性としては三つの案ということで、状態を安全安心安定供給でこれはもう異論はないところで、それプラス何か特徴となりを持たせるというような方向性はいいと思いますが、具体的に静岡は何をやるべきなのかということで実際の未利用者の状況とかポイントや、利用者の状況をみたいなのがないと、どう戦略を作っているのかがわかりづらいのかなというふうには思います。あとDXとかもちろん、もうこれもまさに重要でやるべきではありますけど、そのDXだけでは新し

い価値の創造ができないのでやっぱり新たな価値の創造ということで静岡市場ならではの特色を持たせるっていう方向性は、この通りでいいかなっていうふうには思います。

あと、百瀬委員のさっきのお話のB to Cの市民に来てもらうとかすぐに体験してもらうみたいな議論というのにも必要になってくるのかなと。静岡は結構いいものがありますがその良いものと出会う場が少ないので、もっと出会いの場としての市場そんなところを作るべきなのかな、というふうに思いますし、あと周辺の開発も重要で、市場だけじゃなくて、市場と周辺エリアの軸を何にするか、そんな議論というのにも欠かせない。

実際使っている人使っていない人の状況みたいなのが、結構重要で、それは私もマーケティング専門ですけど、今いるお客さんを把握するということが、苦情は無料のコンサルティングなので、苦情から学んだようなことをやっておりますし、あと利用しない人がいるわけで、なんで利用してないのかみたいな、なぜがわかると、なぜの向こうに方向性が見える、というところがあるので、その辺の分析というのにも欠かせないかなと。国全体のマクロの話よりも、こっち方が重要に思います。以上です。

【水野市場長補佐兼総務係長】

確認ですが、その利用者の調査というのは、あの市場内事業者の皆様はおよび、それ以外のまた、例えば小売事業者様とかということでしょうか。

【岩崎委員】

二つの調査が必要で、今利用している人の声、今利用している人がなぜ利用しているのかと、あと何かやっぱり利用し続けるための何か、不満とか改善点とかあると思います。

まずその声と、あと、そもそも利用していない企業群というのもあるわけで、そういった企業群に今後、市場が伸びていくために利用してもらわないといけないので、そういったなぜ利用していないのかというような二つの側面から把握していく必要があると思います。

【水野市場長補佐兼総務係長】

はい、ありがとうございます。そういう点では、さしあたり事業者向けの市場内、事業者向けの方アンケートというのは、ちょっとやっていきたいと考えておまして、今利用していない事業者さんどうするかというのは少し検討が必要ではございますけれども、その他、広報課で行っております市政アンケートモニターという調査もございまして、これは市民向けになりますけれども、そうしたアンケートからも意向調査をやりたいと考えております。

【岩崎委員】

そうですね世の中の外部環境を知るのは重要ですけど、まさに市場の内部環境を知るのは欠かせない条件になると思いますし、取り扱いが減ったのは先ほど会計処理だけではない気がします。

要因を分析するということが今後の方向性をしっかり作るためには欠かせない条件だというふうに思いますのでぜひよろしくお願ひします。

【藤島委員長】

調査に関してはいつごろできそうですか。

【水野市場長補佐兼総務係長】

広報課候補その市政アンケートモニター調査につきましては、6月今月中には開始する予定でございます。

【岩崎委員】

事業者向けの方で使っていない事業者と扱っている事業者についてはどうでしょうか。

【上川委員】

買受人さんは何人いますか。

【谷津業務係長】

買受人の数ですが令和5年4月1日現在で、青果物の方が293人、水産物の方が、488人です。

【上川委員】

この方たちからのアンケートはできるのか。

【長島市場長】

今、お答えさせていただいた方々は、買い出しに関して、売買参加者ですとか、買い出しの登録をさせていただいておりますので、我々の方で、そこに向けてピンポイントでアンケートはできるかとは思いますが。岩崎委員のおっしゃった利用していない方をどう把握するのかというのはなかなか難しいのかなと思っております。またそのあたりちょっとお知恵を拝借できればと思います。無作為にアンケートを撒くのも違うと思いますので。

【藤島委員長】

利用されている方でも、ここの市場を利用して、さらに他は他の市場ないし、問屋を利用して生産者の直接取引と色々あるので、ここを利用して理由と、そうじゃなくて他を利用されている理由にしても、全然使われてない方からお聞きしても同じようなところが出てくる。結構、ここを利用されない理由は何なのかというアンケートが重要ななと思います

【長島市場長】

アンケートの項目を工夫して、委員長がおっしゃったような、静岡の市場以外でも仕入れてらっしゃる場合どこから仕入れてるのかとか、なぜそちらを使うのかとかいったような項目を付け足していけば、多少の方向性は出てくるかなとは感じています。

【藤島委員長】

アンケートの項目にいつ頃から他の市場を利用するようになったのか、お聞きいただければ、先ほ

どの平成 27 年前後の現象がなぜ起きたかが分かる可能性もある。それが出てくれば、また対策もありますから将来構想ある程度反映できることもあるのかなど。
他にどうでしょうか。

【宮原委員】

今の案件の事業者アンケートの話ですが、12 ページにスケジュールが乗っていますが市場関係者のヒアリングとか研究会を行うことになっておりますが、この検討委員会の開催が詰まってやっている中で、関係者のヒアリング等が本当に反映できるのかがすごく不安。

先ほど百瀬委員もおっしゃったように、いろんな改善点とか問題点とかってというのは使っている人が一番わかる。我々ははっきり言って、どういうふうに使っているかさえも知らないの、細かいことについては多分出てこない。それよりも本当にわかってらっしゃる方が、提案していったほうがいいと思う。逆に市場の関係者の意見というのが入ってこないと素人の意見になってしまう気がするのかなど。

将来的な事業で、都市計画もそうですけど、何十年後に向けてというのもあるので現在ですね、DX の関係とかいろんな関係で、すごく計画を立てるのは難しくなっているのは理解しています。例えば、自動運転とかについても、今後どうなってくるかとか、多分運送業の中では、人不足とかも出てきますから、多分、自動運転についていろいろあるでしょうけど、そういうものがどうこれに反映するのかと。いろんなことが多分にある中で、どこまでそれらを入れるのか、市場があるべきかというのがすごく判断が難しい中で、この答申で、我々どうするのかっていうのが、漠然とした言い方になってしまうのかなと感じます。

コンサルさんに伺いたいですけど、例えば豊洲とか大きなところで、今もう新しくやっているところがあると思いますが、そういうものってのは将来的な構想っていうのをどう捉えているか、もしわかれば教えていただきたい。

【MUR C 安田】

将来的な構想をどう位置づけるかといところだと理解しまして、こういった会議体でもそうですし、やはりいろんな皆様の意見を取り入れながら、場内の皆様も含めて、どのように将来的に向き合っていくかということを議論されて構想が出来ているかと思います。いろんな場内事業者の皆さんの経営体力も加味する必要がありますし、さまざまな角度からみなさまのご意見いただきながらつくりあげている。

【藤島委員長】

例えば東京だとか豊洲の市場に限らなくてもいいですが、名古屋とか他のところでもいいが、将来市場をどのように持っていくかの方向性を、どのように考えているのかというデータを取ることか出来ますか。他の市場はどういうふうと考えているかということで、他の市場のデータを何らかの形で探り出すというか、あるいは公表されたものを集めることは出来ますか。

【MUR C 安田】

そうですね将来目標をどういう背景をもとに設定しているかというところは確認できる場所もあ

るかと思しますので、次回以降出せれば出したい。

【上川委員】

今ある中央卸売市場と私どもの併設する流通センターは、都市計画上の地域用途、商業地域で、地域用途をそのまま市場は地域用途が商業、今後大きな冷蔵庫とか加工業が充実して、市場機能の重要な役割を占めるとなると、他の市場さんも、商業地域じゃなくて、工業地域というような、地域用途に変わっていくのではないかなと思うのですが、今まで静岡市商業地区だと、作業場が 150 平米、45 坪以内でやりなさいよという形と、動力の制限がある。

それが、今後どうクリアなさるのか、他市でコンサルさんの方で分かれば教えていただきたいのは、豊洲さんとか工業地区っていう非常に広範囲用途が自由なところなのか、それとも商業という地域用途なのか。そこら辺もまた教えていただければなと思う。

【宮原委員】

都市計画的に言うと目的があってその用途を定めているので、この計画が最終計画を行う具体化に関して、こういうものを行いたいとか、ポイントが決まってから、他の色々な法的なもので位置づけするような形になるかと思しますので、多分、庁内検討の中で、都市計画部門も入っていると思いますので、あと道路部門とかも入っていると思いますので、そういう中で意見をどういった形にするかで協議していけばいいと思う。ただ計画決定自体時間がかかるものなので、そのスケジュールで、行っていけばいいかなと。用途変更できないものではない。

さっき言った市場関係者とのヒアリングとか、意見というのは委員会に間に合うのか。

【長島市場長】

そちらの方間に合うように進めてまいります。

【伊藤委員】

私は方向性の是非の確認のところちょっと考えてきたのですが、資料では、安全安心安定の環境作りを目指す将来像として、基本方針や施策、具体的な事例と、とてもよく私も整理されていると思います。

全般的な意見となってしまいますが、せっかく体系的にこうまとめられているのと、あと目指す将来像として持続的な成長を続ける静岡市場と書いてあるのでそのために、このPDCAサイクルを回していくことも重要なと思いました。先ほど百瀬委員がおっしゃっていたように、SDGsやデジタル化など社会は常に変化をしていって、この先10年後とか20年後とか、どうなっていくのかわからないという部分が私も多いように思う。

そのため、それらに合わせて、あと先ほど岩崎委員がおっしゃっていたような利用者の声も身近の声っていうのも、常に調査していく中で、この市場の役割っていうのを常に見直していかないといけないと私は考えました。この変化に応じてこれらの項目をチェックして、次に繋げていく制度設計が大事だと考えました。

【藤島委員長】

集荷力販売力の強化っていうのが、まず、確かにそういった中間評価、これどういう集荷力の強化作業として、どういう集荷力の強化、販売力の強化をしているかっていうのは、よりわかりやすく具体的に提案いただくとよろしいのではないかと思う。例えば集荷力っていう場合、さきほどからお話出ておりますように、現状のままですと集荷量がすごく小さいので、集荷量を増やす方向で考えます。あるいは県内の産地の生産力の強化に関わる形で集荷力の強化を図るいろいろあるかと思えます。そういったところを出していただくと結構上がりやすいとか、また販売については、例えば業務用需要に対する販売力を強化したい。ではそのためにはどういった手法が必要。どういうことをやっていったらいいのかということを考えることで意見が色々出てくると思う。

【水野市場長補佐兼総務係長】

先ほど来百瀬委員から、宮原委員まで、深まったご意見をいただいているところですけども、この将来構想においては、再整備の検討を進めていくための方向性を示すものでございまして、その将来構想の中には、取り組み事業といった具体的なところまで、及ぶことは現時点では考えていないというところになります。そうしたところからすると、取り扱い数量のお話もそうですけれども、方向性を示すという部分においては、必要だとは思いますが、何をどうして誰がどのようにというところについてはその後の検討の中で、加えていかれるものなのかなというふうに考えております。

【藤島委員長】

そんなに細かいところまでではなく全体的な方向として、安全安心安定の方向だっていうことであれば誰も文句言わないわけですよ。そうじゃなくてもう一步踏み込んだところで言っていたかなと、我々静岡市中央卸市場のことを基本的に知らないわけですよ。なのに、我々がどうこうって言いますよりは、まずこういうのでどうかというふうに出されて、それを本当にうまくいくのかどうかというのを議論する方がまだ議論しやすいかなと。だからある程度の具体性を持った議論にしないと、なかなか深みのある議論ができないのではないかと。その中で、集荷力にしても何とかしますよというのを断言する必要はないですけども、現状よりはどれぐらいにしないと、それこそ静岡市民全体に十分な供給ができないんですよっていう形でもって出していただく方がまだよろしいかと思う。

そうすると、将来構想としてある程度はっきりしてくるし、また販売する先も全部ここに販売しようとしているのか。一般消費者に販売すると、業務用利用に販売するのといろいろあるだろうと思えますけれども、そういったものもこういうところに販売しようとしているからこれだけの販売力が必要で、そのための集荷力が必要になるんだっていうのはある程度出てくるのではないかな。なかなか深みがない話になってしまう。抽象的な話ばかりになっちゃうから、お互いに抽象論言われたら、詳細は大きな間違いがない、そうだね、程度のところで終わってしまう。実際出てくるものが全然違うものなのかもしれない。

【長島市場長】

我々の意図が、委員の皆さんに、もしうまく伝わってなかったので申し訳ないんですけども、まさに今委員長がおっしゃっていただいた内容というのが、10 ページ 11 ページに我々が示させていただいたものかなというふうに考えております。卸売市場として、静岡の市場がこれからも持続的な成長

を続けるというために、基本方針1、基本方針2に取り組みハードとソフトというふうに分けさせていただいてあります。それぞれ基本方針に基づく政策の柱というのを、少し我々提案をさせていただいてるところでございます。一例としてハードの部分、基本方針1に基づく政策の柱として、市場流通の品質および衛生管理の強化、こういったものは今後の市場の持続的な発展のために我々必要ではないかというふうに考えて、こういった施策として、市場もこれから考えていくところを、いかがでしょうかというふうにお諮りしているつもりでございます。

この10ページを見ていただきますと一つ目の市場流通の品質および衛生管理の強化については、どういったことを期待してあるいは、こういったものやってくことによって、進んでいける。こういう市場の機能、あるいは衛生管理の強化ができるというふうに考えたものでございます、表の右側のところがですね、他市場の例として挙げさせていただいたものでございます。

ですから、我々静岡の市場を今後どういうふうにしていくかというふうに考えたときに、ハードの政策の一つ目として挙げたときに、その実際他市の市場でどんなことをやっているのかというと、右側の方に事例として、こういったものがあるので、静岡の市場も、こういったことに取り組みれば、ある程度進む方向が間違っていないのではないかというご議論をちょうだいするという考えでおったわけですが、この政策の柱というのが、もちろんこれだけじゃ足りないよという話になるのか、いやこれ全然間違っているよということであれば、もっと違うことをやっぴり静岡市場としてやっていかなければいけない、静岡の市場独特の部分っていうのは何かこれに対して付け加える部分ができるのかどうか。というご意見を頂戴しながらその具体的な取り組みとか、実際静岡の市場では誰がどういうふうに取り組んでいくかというのはまたこれは事業者と一緒に我々考えていくべきことだとは思いますが、方向性として、この考え方が、合っているか合っていないのか。という点で、お話を頂戴できればなど考えていたわけです。

【藤島委員長】

これについては先ほどおっしゃったけれども、大体全体としてその通りだから、別にこれが悪いという意味ではなくて、ただ例えば、市場内流通の高度化というようなことで、市場内の流通を効率化しますよ、円滑化しますよ。じゃ、どのようにしてやるのかという話が出てくる。

事例として、京都とかいくつか挙がっておりますが、そういったところの高度化を参考にすることもいいですけども、静岡の市場どのようなことをするのか。例えば私が市場に行って一番思うのは、元々の市場っていうのは周りから人が集まってきてそこで取引してまとまりに散らばっている仕組みだった。今の市場は右側から入れたら左側でだすような仕組みになっている。で、そのときに今までの施設でいいのか、今までの施設じゃ駄目だと思うわけです。今までの施設は荷が集まってきてみんな取引して散らばっている施設になっている。じゃどうする、一つは、例えば極端なこと言えば、仲卸の店舗は必要ないんです。そういうのを外したいと思っていますとか。言ってくれば、そんな外して大丈夫なのか。我々としては意見出せるけど。そういうのがなかったらなかなか意見をだせない。

高度化します。決して悪くない。具体的にどうやるかわかんなかったら良いも悪いもあるなかなか出てこない。品質および衛生管理の強化っていう、これも誰も文句言わないですよ。ハサップやるのもいいですよ。どれだけできるかっていうところの問題あるかもしれませんが、それを少しでもすすめていくそれは決して悪いことではない。多分、どのようにどういう具体的にどうだっていう、だからそういう意味での具体性はやっぴある程度必要だ。皆さんどうですかって話をされて、これで

良し悪しを言ってくださいだったら多分ほとんど反対しないと思う。私らも別に悪いと思っていない。

【森下委員】

うちは静岡市場からとっているのかもしれませんが、一番大きいのは価格だと思うんです。生産物は今農家が工夫されていて規格化が進んでいる。特産物とかはダイレクトに生産者や生産地から直接入手の方が効率がいい価格は安い毎日やっぱりでもそれをやると、あの品揃えの問題も出てくる。

また消費者の方が丸物を買わない。キャベツ一個とってもカットしたもの、半加工の品物が売れる。作る手間を嫌がっている。世帯当たりの人数が激減しているので丸物を買うともたない。消費者目線の話と小売業者目線の話があるんですが正直いって2024年問題に触れているので商物分離の話を入れてもいいと思う。例えば海外に売っているもので市場から入手できれば取引も可能。このまま人口が減少すれば海外に品物を出さないとやっていけない。商売を替えるか売場所を変えるか売ものを変えるかしかない。車の保有台数も減ってきている。スーパーマーケットに車で来る人も減る。丸物がさらに売れなくなる。という仮説があげられる。そうになると商物分離という考えも出てくる。

【藤島委員長】

市場で商物分離でもって直接物流センターに届けるといったようなことも考えられますし、もう一つとしては、今に少子化によってカット野菜だとか、カットフルーツとか一般化し、市場内でカットして配送する施設もあってもよい。それこそ物流施設として流通の効率化ということを考えてもよい。

【百瀬委員】

9ページ目ですけど、10、11は専門の方が関わっているので異論はないですが、ただ、考え方が整理できないのは基本方針1、2は安全安心な供給力の強化、2が安定した供給力の強化、両方とも供給力となっているので、例えば方針1は供給力、方針2は経営力とかで、3番目に付加機能。3つくらいに分けた方が整理しやすいのではないのか。

【上川委員】

今度の市場の整備について、市の支出規模、支出についてはどうお考えなのか。今、ハード面なんかでは、全ての施設と、付帯設備も、市で行うようなお考えなのか。それとも、受益者負担という考え方にのっかって、利用をする関係者に応分の負担を望むというようなお考えなのか、そこら辺のお考え方を教えていただきたい。

【長島市場長】

今上川委員の方からお話ありましたけれども12ページのスケジュールのところちょっと触れさせていただいたかと思うんですけども、実際にどの程度まで市の方がお金を出すとか、整理するとかっていうことは、今のところまだ決まってないというのが正直なところなんです。ただ、公共の施設を整備するにあたっては、他市場さんですとかのいろいろな公共事業の例なんかを見ますとやはり民間活用というものが進んでおりますので、再整備等を考えたときにはこういった手法も考えていきますというところがございます。今言えるのはそこまできなというふうには考えております。再整備という言い方の中でもやはり、建て替えですとか、大規模修繕という形で触れさせていただいたかと思うん

ですけれども、どの程度までやるべきかいうところも、これからの議論で詰めるところなのかなという認識でおります。

【稲葉経済局長】

たぶん今の規模は必要ないと考えております。半分にしたらどの程度になるのか等、他の市場の単価をベースにした概算はあります。ただ、そこも含めて、将来構想の中で、7ページありますとおり、最後の方に施設規模のあり方みたいなところである程度どういう機能施設が必要なんだろうか、どの程度のものが必要なんだろうかというようなところについて、ある程度示していただいた後で、例えば公共が関わるかどうかについて、これはもう余地はないものですから、関わっていかざるを得ないのだと思う。

そのための根拠づけはもっと強化していく必要があると思うんですが、その上で全体の規模があって、その方の関わり具合の上も含めてですね、どうしていくかというのは、来年度以降のいろんなサウンディングだとか、PFIの調査だとか、そういった中でやっていく。

ただこれらをやっていく上で、いくつかいただいた例えば前段の部分で、百瀬委員がおっしゃられたような大きなところでの整理が必要でしょうし、岩崎委員おっしゃられたようなその調査の近々やっていきたいと思います。8から11のところについて特にこの部分について意見をいただきましたかったという趣旨でございます。全体の中では、この1から14について、構想案ですので、もう少し次回までにはですねそれぞれについて、どこまでかというところについてお示しする必要があると思っております。そういうところで全体を考えていただきたいと思います。

【宮原委員】

PFIで決まりですか。

【稲葉経済局長】

事務局ではそう考えます。

【藤島委員長】

できたらそういう案を出していただくと議論しやすい。市の方で全額負担するという案もあっていいでしょうし、別にそれを市が出したからどうのこうのっていうんじゃないで、そうですね議論して、ここでそういうことになりましたよって形でまとめていただければいいだろうと思う。

【稲葉経済局長】

従いましてそのPFIについてもそこからまたいろんな形がありますんで、全体の機能があって、どの程度の経費がかかるだろうというものもありますし市としてどこまで関与すべきかというところの大まかな話だとか、そういったものをいただくというのが、イメージではあります。PFIに関しては詳細についてはまた来年以降かと考えます。

【藤島委員長】

当然ここで議論してある程度こうだって方向が決まってからといてその通りにならないといけない

わけではないですから、非常にいろいろ出していただいて、こちらで議論させていただいて、行けばわかると思うんですよ。多分、これだけの人数いれば、PFIにしても、市がやるべきなのかどうかとか、いろいろ議論が別れると思います。別れたら、別に一緒にしなくてもいいだろうと思うので別れた意見として取り扱っていただければ。

【水野市場長補佐兼総務係長】

実際PFIから検討していくケースというのは非常に多いですけども、サウンディング等をする中で、断念したというケースもあると聞いております。そうした中から、局長が、PFIと申し上げましたが、他の手段も含めて、PFIというものが中心にあると考えております。

【藤島委員長】

その辺り議論できると市場が何のためにあるのかってということまで入ってくることになるので、非常に深まると思うんですよ。市場が市民のために静岡市は何もしないのかとかね、いろいろ議論が出てくる。で、それがあればこそ我々としても非常に深い議論をすることができると思います。

【水野市場長補佐兼総務係長】

従いまして将来構想について、1から10まで議論するとなると、4回で話し合うことは多分おそらく難しいといったことで事務局側において範囲を絞らせていただいたというのが、現状でございます。で、その辺がうまく説明ができておらず申し訳ございません。

【稲葉経済局長】

今回のお話で10、11ページの細かい方策があります、方向性になります、みたいな説明については、議論の余地ないよと。もっと詳細に言える部分はあるんでしょうけど、今の段階でこれ以上はいいでしょうという議論にしかないというようなお話を承りましたので、それから、その前の9ページの、そもそものこの1と2の考え方がいいのかどうかについてご意見いただいたということで、ということで、今後は例えば、今まで公として必要だっという一応の方向性はあった中ですが、その上で関わり方について、市がどこまで関与するのか、PFIでどこまでだとか、そういったところについて具体的な資料をお見せしてご意見いただいて、この7ページの将来構想の1から14が何か具として埋まっていくようなものになっていけばいいのかなと思っております。

【藤島委員長】

そういう形で進めていくのが私もいいと思います。

【上川委員】

結果、10ページの新しい市場機能の付近についてちょっとご要望をですが、中央卸売市場の周りの環境っていうのは、麻機遊水地という非常に貴重な遊水地があって、なおかつ、市場が川合山という山の麓っていうのは、全国的にもないところだと思います。それに近年山崩れがあって、3億円ぐらいの補修費用を出していますから、将来どうするのかっていうことを、この市場の再整備のときに、環境にちゃんと配慮して、今後とも維持していくのか山をどうするのかという形を、この機会に考え

ていただいて、県と連携していただきたい。個人的には市場の中に、市民のひろばとかそういうものはあまり入れない方がいいんじゃないかなあとと思います。せっかくある麻機遊水地とか非常に賑わっていますから、ああいうものをご利用なさった方が、いいんじゃないのかなっていうのはこういうふうには思います。

【伊藤委員】

資料もたくさんこう準備してくれて、今回の議論のポイントも、設定していただいたんで私は今回1番と2番について考えていきました。私の案は一案となるだけなのですが、例えば、資料2の10ページ目にあります2つの柱の3番目、新しい市場機能の付加の方向性として、用地の有効な活用について書かれています。

私はこの1案として、ドライバーがゆっくりとし、休めるような駐車スペースを設けることを提案します。資料3にもありますように、物流の2024年問題があります。時間外労働の時間が制限されることで、ドライバーにとって長時間労働の面としては、労働環境の改善に繋がるかもしれませんが、その面だけでなく、休憩がじっくりとりにくいことの課題としてあると考えられます。ドライバーの方たちは、サービスエリアや道の駅、コンビニなどで休憩をしますが、道の駅はいたるところにあるわけでもないし、コンビニは駐車場が大きい店舗や、止められる台数も限られています。

そこで今回周辺地域の活性化の具体例として、食文化の普及スペースや道の駅などの案があるため、特にトラック用の駐車場スペースを設けることも追加案として考えました。資料3にもありますように、2024年問題の影響の対策として、効率化の取り組みに目を向けることもとても重要だと私も思います。しかし、ドライバーの方々が抱える問題にも目を向け、改善するような取り組みを行うことで、ドライバーの方から見て、好印象省になりますし、こういった取り組みをすることで、静岡市中央卸売市場の話題性やPR効果としても繋がっていくのではないかと私は考えました。

【宮原委員】

12ページにありますけども、前からやっていると思いますが、周辺地域活性化ワーキングで、さっき言ったいろんな部局いろいろとやっていると思う。地域課題とか簡単に言うと、道路渋滞とか、浸水とかわかりやすいんですけど、さっきおっしゃったような要素規制みたいな話もあったり、いろんな法令がある中で、課題とか行政の方しかわからないことや課題とかもあると思いますので、こういうものに位置づけしていった方がいいのかなという気がします。だから新しい市場規模の付加っていうポジティブなことじゃなくて結構ネガティブな部分も多分あるかもしれませんが、こういう中で提案すればそれなりの事業の有効性が出ると思いますので、ここの中だけだとしてどうしても小さくなるというのがありますので、事業者へのアンケート、ヒアリングとか、あと、庁内での検討とか、専門部署の検討というのをうまく組み入れるといいと思う。

【稲葉経済局長】

今の件は、まず庁内的に横断的に検討している部分ありますから、それについて情報提供させていただこうかと思います。

【百瀬委員】

市場機能の付加の部分で食文化というところをもっと扱っていただきたい。食が多様化しておりいろんな選択肢があるなかで中央卸売市場。食育を含め、先ほど施策の中に入れるかどうかだと思います。

【岩崎委員】

今の百瀬先生の食文化というのは非常に重要だと思いますので、「静岡ならではの食との出会いの場」を作っていただけると良いのでは。

基本方針についてハードとソフトの二つに分けるのはどうかと思う。今はハードとソフトが融合して価値を生み出すので、1も2も供給なので、やっぱり供給力を強くするのと、利用しやすいみたいな需要を促進するものと、市民目線について等、そういう構成にしないと施策を出すだけで、やっぱり利用されないというふうになってしまうかと思いますが、ここはちょっと体系を見直すことを考えていただいたほうが良いともう。ハードとソフトを分ける時代じゃないかなというふうに思います。

【増田委員】

シラスと仲買さんは、組合として、他には出せないきまりになっているんですけど、漁業者さんは結局お買い取り価格なんです。そうすると、やっぱりトン数によってかなり収入が減ってしまう。

そういった中で資料にあるネット販売とか、ものすごく上がっている、これから先もっともっと上がってくのかなと思う。安心安全安定の中で、安定に物を供給できるのか、ましてうちの仲買さんもそうですけど、今直接卸売市場に出す感じではなくて、個々に業者さんに出すケースが多いのかなと思うんですけど、そのネット販売を含めて、卸売市場に出すメリットっていうものは、もうちょっとないと、この先ちょっと安定的にものを供給できるっていうことができなくなってくるのかなあと 생각합니다。そういったところをもう少し考えていただけると。

【藤島委員長】

今日は非常にデータをたくさんご用意いただいて、そういった意味では、勉強になるところもありましたし、皆様からいろいろご意見いただきまして、これまでになく、議論を深めることもできたと思っております。いろいろとありがとうございました。

それでは以上をもちまして、第3回令和5年度第1回静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございます。

以上